

表 12：大学学部の助産師養成定員

	2006年	2007年	2008年
1～4	2	2	2
5～9	8	9	9
10～14	10	12	15
15～19	5	6	6
20～	3	2	2
定めていない			1
若干	3	3	3
10名程度	1	1	1
(空白)	13	10	6
総計	45	45	45

表 13：教育機関別助産師課程定員等年次推移

	2006年		2007年		2008年	
	平均ないし度数	SD	平均ないし度数	SD	平均ないし度数	SD
<b>大学等</b>						
対象数	36		41		46	
助産師課程定員	11.9	8.5	11.9	8.2	11.3	6.7
助産師課程在籍者数	10.0	7.1	9.7	6.6	9.4	6.3
助産師課程卒業者数	9.3	5.8	9.1	4.8	8.4	4.6
助産師課程教員数	5.0	2.5	5.0	2.5	4.8	2.3
利用実習施設数	4.8	3.9	5.3	4.0	5.1	3.9
学生あたり分娩介助数	10.3	1.5	10.6	1.9	10.4	1.8
<b>短期大学</b>						
対象数	4		5		5	
助産師課程定員	15.0	7.1	15.8	6.3	16.0	6.5
助産師課程在籍者数	17.3	7.6	17.5	7.4	19.0	7.7
助産師課程卒業者数	17.3	7.6	16.8	7.0	18.8	7.7
助産師課程教員数	3.3	0.5	3.2	0.4	3.6	0.9
利用実習施設数	4.0	2.4	5.6	3.7	5.2	2.9
学生あたり分娩介助数	9.6	0.4	9.8	0.5	9.8	0.5
<b>専門学校</b>						
対象数	21		21		23	
助産師課程定員	21.2	7.4	21.9	7.5	22.0	7.5
助産師課程在籍者数	18.7	6.7	20.1	7.4	20.3	7.3
助産師課程卒業者数	18.0	7.0	19.5	7.3	19.3	7.3
助産師課程教員数	3.5	0.7	3.7	0.8	4.0	0.9
利用実習施設数	5.2	3.0	5.6	3.2	5.9	3.5
学生あたり分娩介助数	9.9	0.4	10.0	0.4	10.1	0.4
<b>全体</b>						
対象数	61		67		74	
助産師課程定員	15.3	9.1	15.3	9.0	14.9	8.4
助産師課程在籍者数	13.5	8.1	13.5	8.4	13.5	8.4
助産師課程卒業者数	12.9	7.6	12.8	7.5	12.5	7.8
助産師課程教員数	4.4	2.1	4.4	2.1	4.5	1.9
利用実習施設数	4.9	3.5	5.4	3.7	5.3	3.7
学生あたり分娩介助数	10.1	1.2	10.3	1.5	10.3	1.4

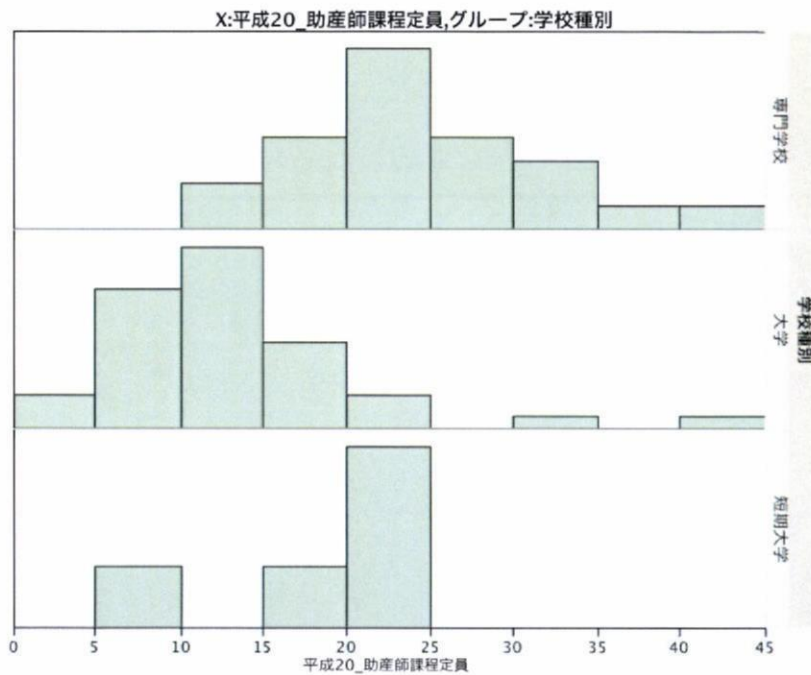


図 3 : 2008 年教育機関別助産師定員分布



図 4 : 2006 年度助産師課程定員分布

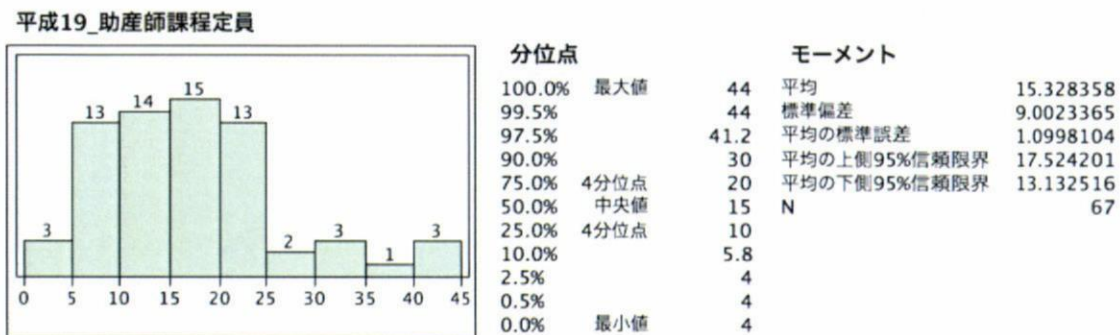
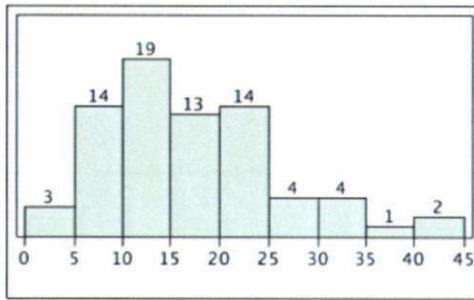


図 5 : 2007 年度助産師課程定員分布

平成20\_助産師課程定員



分位点

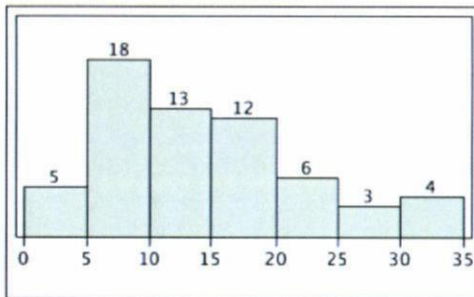
100.0%	最大値	40
99.5%		40
97.5%		40
90.0%		27.5
75.0%	4分位点	20
50.0%	中央値	15
25.0%	4分位点	10
10.0%		6
2.5%		3.75
0.5%		2
0.0%	最小値	2

モーメント

平均	14.932432
標準偏差	8.4340001
平均の標準誤差	0.9804326
平均の上側95%信頼限界	16.886432
平均の下側95%信頼限界	12.978433
N	74

図 6：2008 年度助産師課程定員分布

平成18\_助産師課程在籍者数



分位点

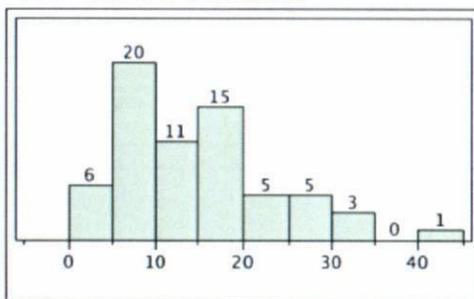
100.0%	最大値	34
99.5%		34
97.5%		33.45
90.0%		28.4
75.0%	4分位点	16.5
50.0%	中央値	12
25.0%	4分位点	7.5
10.0%		5
2.5%		2.55
0.5%		2
0.0%	最小値	2

モーメント

平均	13.47541
標準偏差	8.0552396
平均の標準誤差	1.0313677
平均の上側95%信頼限界	15.538452
平均の下側95%信頼限界	11.412367
N	61

図 7：2006 年度助産師課程在籍者数分布

平成19\_助産師課程在籍者数



分位点

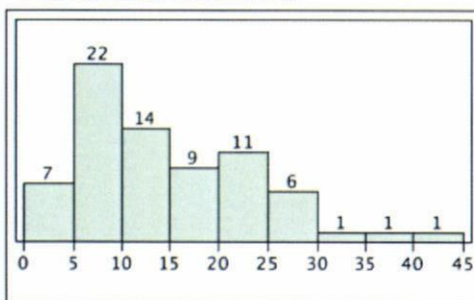
100.0%	最大値	40
99.5%		40
97.5%		35.95
90.0%		26
75.0%	4分位点	18
50.0%	中央値	12
25.0%	4分位点	7
10.0%		4.7
2.5%		1.35
0.5%		0
0.0%	最小値	0

モーメント

平均	13.469697
標準偏差	8.4201584
平均の標準誤差	1.0364499
平均の上側95%信頼限界	15.53963
平均の下側95%信頼限界	11.399764
N	66

図 8：2007 年度助産課程在籍者数分布

平成20\_助産師課程在籍者数



分位点

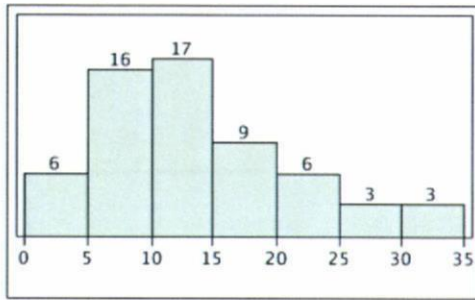
100.0%	最大値	40
99.5%		40
97.5%		35.875
90.0%		25
75.0%	4分位点	20
50.0%	中央値	11.5
25.0%	4分位点	7
10.0%		4.3
2.5%		1.825
0.5%		1
0.0%	最小値	1

モーメント

平均	13.472222
標準偏差	8.4436362
平均の標準誤差	0.9950921
平均の上側95%信頼限界	15.456379
平均の下側95%信頼限界	11.488065
N	72

図 9：2008 年度助産師課程在籍者数分布

平成18\_助産師課程卒業者数



分位点

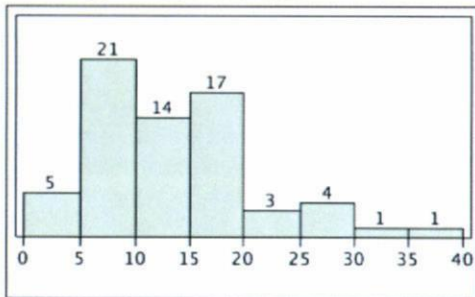
100.0%	最大値	34
99.5%		34
97.5%		31.9
90.0%		25.7
75.0%	4分位点	16
50.0%	中央値	11
25.0%	4分位点	7.25
10.0%		4.1
2.5%		2.525
0.5%		2
0.0%	最小値	2

モーメント

平均	12.9
標準偏差	7.5614993
平均の標準誤差	0.9761854
平均の上側95%信頼限界	14.853342
平均の下側95%信頼限界	10.946658
N	60

図 10：2006 年度助産師課程卒業者分布

平成19\_助産師課程卒業者数



分位点

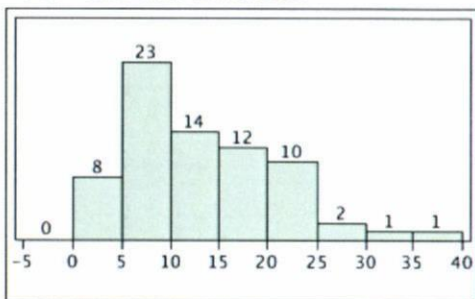
100.0%	最大値	38
99.5%		38
97.5%		35.3
90.0%		24.3
75.0%	4分位点	17
50.0%	中央値	11.5
25.0%	4分位点	7
10.0%		5
2.5%		3.025
0.5%		1
0.0%	最小値	1

モーメント

平均	12.848485
標準偏差	7.5472714
平均の標準誤差	0.9290049
平均の上側95%信頼限界	14.703836
平均の下側95%信頼限界	10.993134
N	66

図 11：2007 年度助産師課程卒業者数分布

平成20\_助産師課程卒業者数



分位点

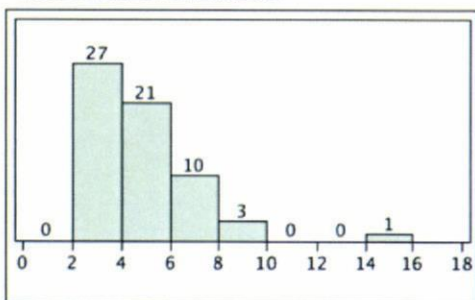
100.0%	最大値	39
99.5%		39
97.5%		34.2
90.0%		24
75.0%	4分位点	16
50.0%	中央値	10
25.0%	4分位点	7
10.0%		4
2.5%		1.6
0.5%		0
0.0%	最小値	0

モーメント

平均	12.521127
標準偏差	7.7880112
平均の標準誤差	0.9242669
平均の上側95%信頼限界	14.364519
平均の下側95%信頼限界	10.677735
N	71

図 12：2008 年度助産師課程卒業者数分布

平成18\_助産師課程教員数



分位点

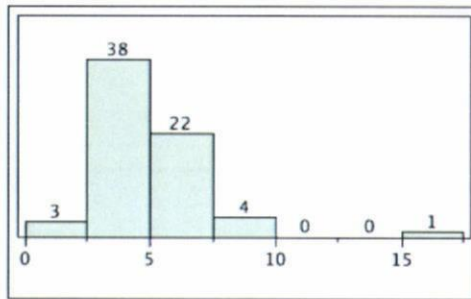
100.0%	最大値	15
99.5%		15
97.5%		10.975
90.0%		7
75.0%	4分位点	5
50.0%	中央値	4
25.0%	4分位点	3
10.0%		3
2.5%		2
0.5%		2
0.0%	最小値	2

モーメント

平均	4.4032258
標準偏差	2.0760909
平均の標準誤差	0.2636638
平均の上側95%信頼限界	4.9304542
平均の下側95%信頼限界	3.8759974
N	62

図 13：2006 年度助産師課程教員数分布

平成19\_助産師課程教員数



分位点

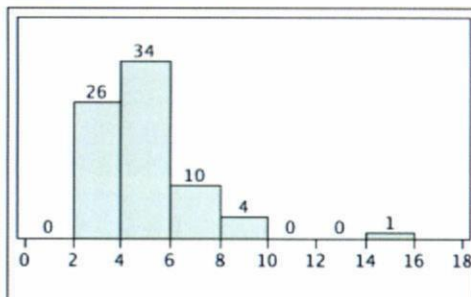
100.0%	最大値	16
99.5%		16
97.5%		10.2
90.0%		7
75.0%	4分位点	5
50.0%	中央値	4
25.0%	4分位点	3
10.0%		3
2.5%		2
0.5%		2
0.0%	最小値	2

モーメント

平均	4.4411765
標準偏差	2.0974921
平均の標準誤差	0.2543583
平均の上側95%信頼限界	4.9488777
平均の下側95%信頼限界	3.9334752
N	68

図 14：2007 年度助産師課程教員数分布

平成20\_助産師課程教員数



分位点

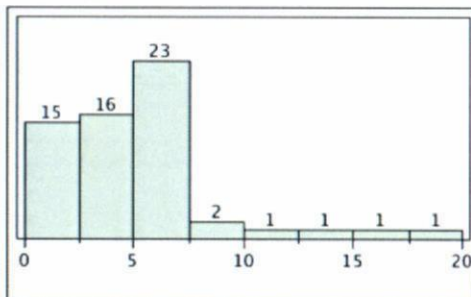
100.0%	最大値	15
99.5%		15
97.5%		8.7
90.0%		7
75.0%	4分位点	5
50.0%	中央値	4
25.0%	4分位点	3
10.0%		3
2.5%		2
0.5%		2
0.0%	最小値	2

モーメント

平均	4.4666667
標準偏差	1.9054214
平均の標準誤差	0.2200191
平均の上側95%信頼限界	4.9050643
平均の下側95%信頼限界	4.028269
N	75

図 15：2008 年度助産師課程教員数分布

平成18\_利用実習施設数



分位点

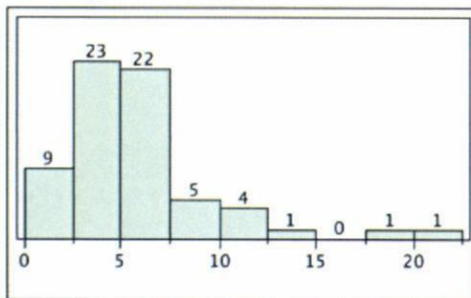
100.0%	最大値	18
99.5%		18
97.5%		16.95
90.0%		8.8
75.0%	4分位点	6
50.0%	中央値	4
25.0%	4分位点	2.25
10.0%		1.1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

モーメント

平均	4.9
標準偏差	3.4870219
平均の標準誤差	0.4501726
平均の上側95%信頼限界	5.8007933
平均の下側95%信頼限界	3.9992067
N	60

図 16：2006 年度に利用した実習施設数分布

平成19\_利用実習施設数



分位点

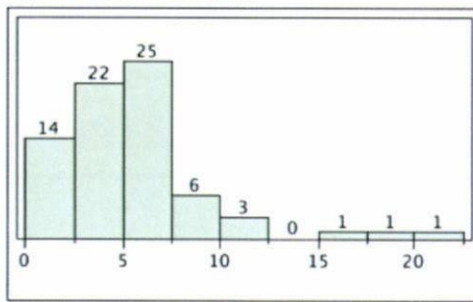
100.0%	最大値	21
99.5%		21
97.5%		18.975
90.0%		10
75.0%	4分位点	7
50.0%	中央値	5
25.0%	4分位点	3
10.0%		2
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

モーメント

平均	5.4242424
標準偏差	3.7295519
平均の標準誤差	0.4590761
平均の上側95%信頼限界	6.3410807
平均の下側95%信頼限界	4.5074041
N	66

図 17：2007 年度に利用した実習施設数分布

平成20\_利用実習施設数



分位点

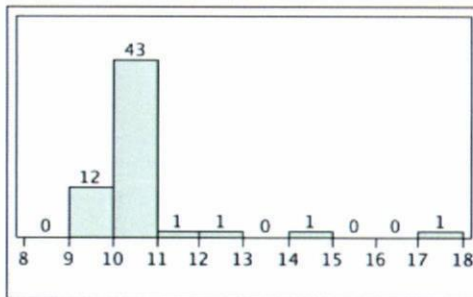
100.0%	最大値	20
99.5%		20
97.5%		19.15
90.0%		9
75.0%	4分位点	7
50.0%	中央値	5
25.0%	4分位点	3
10.0%		2
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

モーメント

平均	5.3424658
標準偏差	3.7051735
平均の標準誤差	0.4336578
平均の上側95%信頼限界	6.2069467
平均の下側95%信頼限界	4.4779848
N	73

図 18：2008 年度に利用した実習施設数分布

平成18\_分娩介助数/学生



分位点

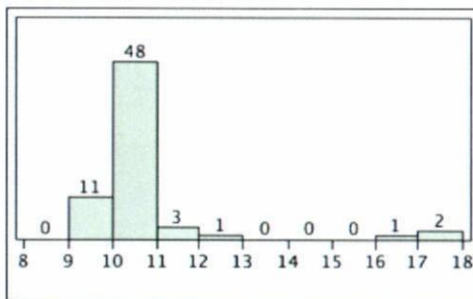
100.0%	最大値	17
99.5%		17
97.5%		15.5
90.0%		10.4
75.0%	4分位点	10.13
50.0%	中央値	10
25.0%	4分位点	10
10.0%		9
2.5%		9
0.5%		9
0.0%	最小値	9

モーメント

平均	10.145424
標準偏差	1.1865021
平均の標準誤差	0.1544694
平均の上側95%信頼限界	10.454628
平均の下側95%信頼限界	9.8362196
N	59

図 19：2006 年度学生あたり平均分娩介助数分布

平成19\_分娩介助数/学生



分位点

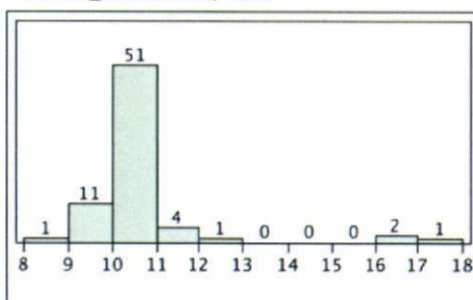
100.0%	最大値	17
99.5%		17
97.5%		17
90.0%		11
75.0%	4分位点	10
50.0%	中央値	10
25.0%	4分位点	10
10.0%		9.57
2.5%		9
0.5%		9
0.0%	最小値	9

モーメント

平均	10.363636
標準偏差	1.4972679
平均の標準誤差	0.1843009
平均の上側95%信頼限界	10.731711
平均の下側95%信頼限界	9.995562
N	66

図 20：2007 年度学生あたりの平均分娩介助件数

平成20\_分娩介助数/学生



分位点

100.0%	最大値	17
99.5%		17
97.5%		16.44
90.0%		11
75.0%	4分位点	10
50.0%	中央値	10
25.0%	4分位点	10
10.0%		9.32
2.5%		8.88
0.5%		8.4
0.0%	最小値	8.4

モーメント

平均	10.273803
標準偏差	1.4152348
平均の標準誤差	0.1679575
平均の上側95%信頼限界	10.608783
平均の下側95%信頼限界	9.9388222
N	71

図 21：2008 年度学生あたり分娩介助数分布

表 14：助産師養成をあと1人増やすために必要な資源の筆頭に挙げられたもの

第1位の項目	大学	短期大学	専門学校	総計
実習施設	25	5	15	45
教員	13		5	18
予算	3			3
実習指導者	1		2	3
指定規則	1			1
カリキュラム	1			1
実習期間	1			1
学生	1			1
熱意	1			1
無理			1	1
総計	47	5	23	75

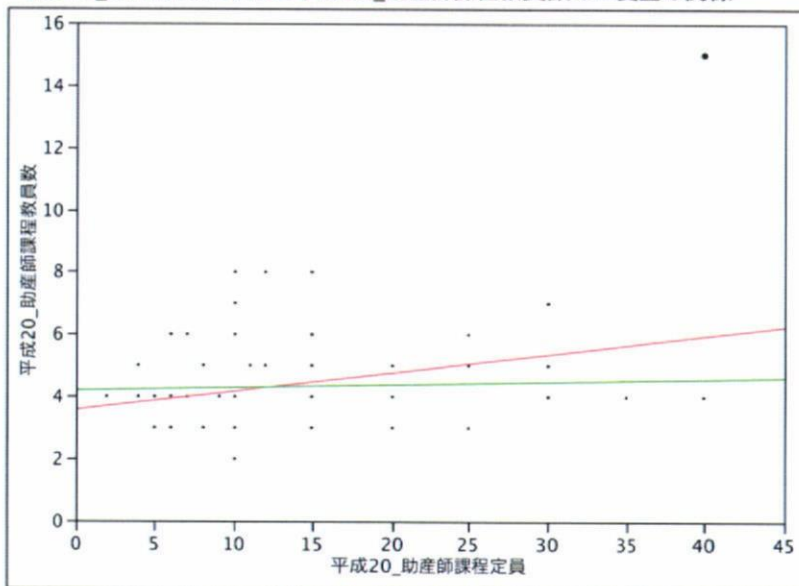
表 15：助産師養成をあと1人増やすために必要な資源の第2位に挙げられたもの

第2位の項目	大学	短期大学	専門学校	総計
教員	17	4	8	29
実習施設	13		7	20
実習指導者	6	1	5	12
カリキュラム	2			2
意欲のある学生	2			2
実習期間	1		1	2
卒後教育	1			1
(空白)	5		2	7
総計	47	5	23	75

表 16：助産師養成をあと1人増やすために必要な資源の第3位に挙げられたもの

第3位の項目	大学	短期大学	専門学校	総計
予算	6	1	6	13
実習指導者	6	2	3	11
教員	4	1	3	8
カリキュラム	4		2	6
実習施設	5		1	6
実習環境	1		1	2
実習期間	2			2
学生	1			1
教育機関	1			1
周産期医療システム	1			1
利用者の意識	1			1
立地			1	1
(空白)	15	1	6	22
総計	47	5	23	75

平成20\_助産師課程定員と平成20\_助産師課程教員数の二変数の関係



— 直線のあてはめ  
— 直線のあてはめ  
多項式のあてはめ次数=2

**直線のあてはめ**

$$\text{平成20\_助産師課程教員数} = 3.5833388 + 0.0595773 * \text{平成20\_助産師課程定員}$$

**あてはめの要約**

R2乗	0.068659
自由度調整R2乗	0.055723
誤差の標準偏差(RMSE)	1.863445
Yの平均	4.472973
オブザベーション(または重みの合計)	74

**分散分析**

要因	自由度	平方和	平均平方	F値
モデル	1	18.43113	18.4311	5.3079
誤差	72	250.01482	3.4724	<b>p値(Prob&gt;F)</b>
全体(修正済み)	73	268.44595		0.0241*

**パラメータ推定値**

項	推定値	標準誤差	t値	p値(Prob> t )
切片	3.5833388	0.442757	8.09	<.0001*
平成20_助産師課程定員	0.0595773	0.02586	2.30	0.0241*

**直線のあてはめ**

$$\text{平成20\_助産師課程教員数} = 4.1947054 + 0.0091892 * \text{平成20\_助産師課程定員}$$

**あてはめの要約**

R2乗	0.002464
自由度調整R2乗	-0.01159
誤差の標準偏差(RMSE)	1.480982
Yの平均	4.328767
オブザベーション(または重みの合計)	73

**分散分析**

要因	自由度	平方和	平均平方	F値
モデル	1	0.38469	0.38469	0.1754
誤差	71	155.72490	2.19331	<b>p値(Prob&gt;F)</b>
全体(修正済み)	72	156.10959		0.6766

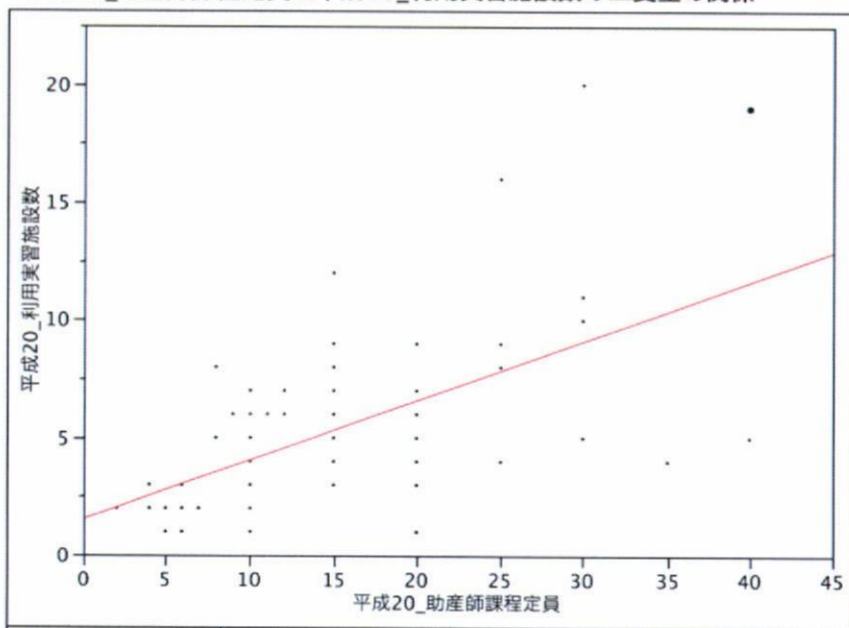
**パラメータ推定値**

項	推定値	標準誤差	t値	p値(Prob> t )
切片	4.1947054	0.364028	11.52	<.0001*
平成20_助産師課程定員	0.0091892	0.021942	0.42	0.6766

図 22：助産師養成定員と教員数との関係(2008年)



平成20\_助産師課程定員と平成20\_利用実習施設数の二変量の関係



直線のあてはめ  
直線のあてはめ

$$\text{平成20_利用実習施設数} = 1.5384634 + 0.2526771 * \text{平成20_助産師課程定員}$$

あてはめの要約

R2乗	0.330183
自由度調整R2乗	0.320749
誤差の標準偏差(RMSE)	3.053682
Yの平均	5.342466
オブザベーション(または重みの合計)	73

分散分析

要因	自由度	平方和	平均平方	F値
モデル	1	326.36540	326.365	34.9991
誤差	71	662.07295	9.325	p値(Prob>F)
全体(修正済み)	72	988.43836		<.0001*

パラメータ推定値

項	推定値	標準誤差	t値	p値(Prob> t )
切片	1.5384634	0.735657	2.09	0.0401*
平成20_助産師課程定員	0.2526771	0.042711	5.92	<.0001*

図 23：助産師養成定員と実習施設数との関係(2008年)

表 17：助産師養成キャパシティ推計

		2006年		2007年		2008年	
		数字のみ	在籍数で 補完	数字のみ	在籍数で 補完	数字のみ	在籍数で 補完
当該大学数		27	31	31	35	34	39
回答した大学の入学定員	a	1,975	2,235	2,490	3,470	2,815	3,470
回答された助産師定員	b	308	334	346	368	364	390
助産師定員割合	c=a/b*100%	15.6	14.9	13.9	10.6	12.9	11.2
全入学定員	d	8,324	8,324	8,740	8,740	9,120	9,120
助産師課程をもつ大学定員	e	7,169	7,169	7,663	7,663	7,933	7,933
助産師課程をもつ大学の助産師養成キャパシティ推計	f=e*c	1,118	1,071	1,065	813	1,026	892
助産師養成キャパシティ推計	g=d-e+f	2,273	2,226	2,142	1,890	2,213	2,079

## 資料 1

〇〇県△△△△課 御中

長野県看護大学大学院博士前期課程  
基礎看護学専攻 増田 綾

### 研究協力をお願い

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は長野県看護大学大学院博士前期(修士)課程の学生で、増田綾と申します。現在、平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「助産師の需給実態の把握と適正な養成数および配置基準の探索」(主任研究者:前田樹海)の一環として、下記要領にて「分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向」の研究に取り組んでおります。

近年、産科の閉鎖・規模縮小は社会的に大きな問題となっております。本研究ではそのうち助産師に焦点を当て、産科が撤退した病院における助産師の進路動向や専門性を発揮するための方策を明らかにすることを目的としております。しかしながら、分娩取り扱いの有無を判別できるリスト等は無く、今回の研究対象となる病院の把握が困難です。

そこで、病院を対象とした調査(下記第 2 段階調査)に先立ちまして、全都道府県を対象に調査を実施することにいたしました。つきましては、〇〇県において把握されている 2008 年 4 月現在の分娩取り扱い機関数と 2007 年 4 月から 2008 年 4 月の間に分娩取り扱いを中止した病院(診療所、助産院は除く)の名称、および分娩取り扱いを中止した時期についてお答えいただきたく存じます。ご多忙中のところ大変恐れ入りますが、別紙調査票にご回答いただき、同封の封筒で郵送あるいは FAX にて 2008 年\*\*月\*\*日\*曜日までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

#### 記

- 1) 研究テーマ:「分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向」
- 2) 研究目的:わが国で現在増加している分娩取り扱い中止となった病院の実態の把握、及びそれに伴う助産師の動向を明らかにし、助産師の専門性が現在の医療制度の中でどう活かされ得るかを明らかにする。
- 3) 研究方法:調査票による実態調査
- 4) 研究対象:〈第一段階〉47 都道府県各看護主管課  
〈第二段階〉2007 年 4 月から 2008 年 4 月までの間に分娩取り扱いを中止した病院の看護部長もしくは産科師長
- 5) データ収集方法:  
〈第一段階〉47 都道府県各看護主管課への調査票送付にて、2007 年 4 月から 2008 年 4 月の間に分娩取り扱い中止した病院のリスト作成 (この調査です)

〈第二段階〉リストアップされた病院の看護部長に助産師の動向に関する質問紙調査  
および必要に応じて面接調査を実施

- 6) 調査期間：第一段階-平成 20 年 8 月 第二段階-平成 20 年 8 月～9 月
- 7) 分析方法：調査票は Microsoft Excel および SPSS を使用し、データ入力及び統計処理を行う。
- 8) 倫理的配慮：本研究は地域性に応じた助産師の就業動向を明らかにすることを目的のひとつとしているため、その病院の所在する都道府県はもとより、第 2 次保健医療圏までを特定する必要がある。そのため病院名は研究上不可欠な情報である。回収した調査票により助産師個人が特定されることはないが、調査票に個人情報等が含まれている場合があるため、必要な時以外は研究者によって厳重な施錠管理を行うなど、情報セキュリティの確保に努めるとともに、データの入力や処理に関しては、外部委託せず、研究者自らが責任を持って行うこととする。尚、本研究は長野県看護大学倫理委員会の審査を受けて行う。(審査番号:#10 承認年月日:平成 20 年 6 月 17 日)
- 9) 研究成果の公表：研究成果は厚生労働省に報告するとともに、日本看護研究学会学術集会、平成 20 年度長野県看護大学修士論文発表会にて発表する。また学術誌(未定)への投稿を予定している。都道府県に対しては、本調査結果の概要をお伝えする予定である。

以上

ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

長野県看護大学大学院博士前期(修士)課程 ますだあや 増田綾

E-mail: ns0770\*\*@nagano-nurs.com

長野県看護大学生活援助学講座准教授 まえだじゅかい 前田樹海

E-mail: \*\*\*\*\*@nagano-nurs.ac.jp

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694 番地

電 話： 0265-81-\*\*\*\*(直通)

F A X： 0265-81-\*\*\*\*

## 資料 2

FAX 0265-81-\*\*\*\* もしくは同封の返信用封筒にてご返送ください

締め切り：2008年\*\*月\*\*日 月曜日

「分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向」

長野県看護大学大学院博士前期（修士）課程 増田綾ますだあや

### 分娩取り扱いを中止した病院に関する調査票

#### 〇〇県

1. 2008年4月現在の分娩を取り扱っている施設数を教えてください。

	施設数
病院	件 ・ 不明
診療所	件 ・ 不明
助産院	件 ・ 不明

2. 2007年4月から2008年4月の間に分娩取り扱いを中止した病院名と中止時期を教えてください。

病院名	中止時期
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで
	年 月まで

※欄が足りない場合は裏面等にご記入ください

3. ○○県における産科医療の問題点とその対策について、差し支えない範囲で教えてください。

問題点	
対策	
その他、産科医療や助産師の専門性の発揮に関して独自の取り組み等がありましたら教えてください。	

ご協力誠にありがとうございました

## 研究協力をお願い

新秋の候、貴病院におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は長野県看護大学大学院博士前期(修士)課程の学生で、増田綾と申します。現在、平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「助産師の需給実態の把握と適な養成数および配置基準の探索」(主任研究者:前田樹海)の一環として、「分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向」の研究に取り組んでおります。

近年産科医師不足による産科の閉鎖・規模縮小は社会的にも大きな問題となっております。多くの医療機関が分娩業務から撤退することで、助産という専門性を発揮することが困難となった助産師が少なからず存在し、そして今後も増加していくことが推測されます。しかし、現在、わが国の分娩中止となった病院の実態については明らかにされておらず、助産師の就業動向に関しても明らかになっていません。

そこで、全国各都道府県の看護主管課への調査およびインターネット検索により、2007 年 4 月から 2008 年 4 月までの間に分娩の取り扱いを中止した病院のリストを得、それらの病院における助産師の就業動向について個別に調査をしているところです。(詳細下記)

つきましてはご多忙中のところ大変恐れ入りますが、調査票に回答いただき、同封の封筒で 2008 年\*\*月\*\*日\*曜日までに返送いただければ幸甚です。調査票の回答は自由意志によるもので、回答困難な質問に関しては空欄としていただいても構いませんが、できる限りのご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本調査票の返信をもって本研究への協力に同意を得られたものとさせていただきます。尚、本調査票には病院を特定するための ID 番号をあらかじめ記入していますが、これはあくまでも地域特性、および病院の特性別の助産師の就業動向を検討するためのものであり、病院名の特定が目的ではないことをご理解いただきたくお願い申し上げます。

## 記

- 1) 研究テーマ:「分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向」
- 2) 研究目的:わが国で現在増加している分娩取り扱い中止となった病院の実態の把握、およびそれに伴う助産師の動向を明らかにし、助産師の専門性が現在の医療制度の中でどう活かされ得るかを明らかにする。
- 3) 研究方法:調査票による実態調査
- 4) 研究対象:第一段階-47 都道府県各看護主管課  
第二段階-2007 年 4 月から 2008 年 4 月までの間に分娩取り扱いを中止した病院の看護部長もしくは産科師長
- 5) データ収集方法:  
第一段階:47 都道府県各看護主管課への質問紙調査およびインターネット検索にて、2007 年 4 月から 2008 年 4 月の間に分娩取り扱い中止した病院のリスト作成  
第二段階:上記病院の看護部長に助産師の動向に関する質問紙調査および必要に応じて面接調査を実施 (この調査です)

- 6) 調査期間：第一段階-平成 20 年 8 月 第二段階-平成 20 年 9 月
- 7) 分析方法：調査票は Microsoft Excel および SPSS を使用し、データ入力及び統計処理を行う。
- 8) 倫理的配慮：本研究は地域性に応じた助産師の就業動向を明らかにすることを目的のひとつとしているため、その病院の所在する都道府県はもとより、第 2 次保健医療圏までを特定する必要がある。そのため病院名は研究上不可欠な情報である。回収した調査票により助産師個人が特定されることはないが、調査票に個人情報等が含まれている場合があるため、必要な時以外は研究者によって厳重な施錠管理を行うなど、情報セキュリティの確保に努めるとともに、データの入力や処理に関しては、外部委託せず、研究者自らが責任を持って行うこととする。尚、本研究は長野県看護大学倫理委員会の審査を受けて行うものである。
- (審査番号：#10 承認年月日：平成 20 年 6 月 17 日)
- 9) 研究成果の公表：研究成果は厚生労働省に報告するとともに、日本看護研究学会学術集会、平成 20 年度長野県看護大学修士論文発表会にて発表する。また学術誌（未定）への投稿を予定している。必要に応じて研究協力者に対し、結果のフィードバックを行う。

以上

ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

長野県看護大学大学院博士前期（修士）課程 増田綾 ますだあや

E-mail: ns0770\*\*@nagano-nurs.com

長野県看護大学生生活援助学講座准教授 前田樹海 まえだじゅかい

E-mail: \*\*\*\*\*@nagano-nurs.ac.jp

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694 番地

電 話： 0265-81-\*\*\*\*(直通)

F A X： 0265-81-\*\*\*\*

資料 4

同封の返信用封筒もしくは FAX 0265-81-\*\*\*\*にてご返送ください。

**分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向に関する調査**

以下の各質問にご回答いただき、同封の封筒あるいは FAX にて 2008 年\*\*月\*\*日金曜日までにご返送いただければ幸いです。

回答困難な質問に関しては空欄としていただいて構いませんが、できる限りのご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

尚、本調査票には病院を特定するための ID 番号をあらかじめ記入していますが、これはあくまでも地域特性、および病院の特性別の助産師の就業動向を検討するためのものであり、病院名の特定が目的ではないことをご理解いただきたくお願い申し上げます。

1. 分娩取り扱い中止の時期についてお尋ねします。分娩数が 0 になった年月を教えてください。

分娩取り扱い中止： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月

2. 分娩取り扱い中止の理由についてお尋ねします。以下の選択肢から当てはまるものを選んでください。その他の理由があれば空欄にご記入ください。（複数回答可）

- a. 産科医確保困難
- b. 助産師確保困難
- c. 分娩数減少
- d. その他（ \_\_\_\_\_ ）

3. 分娩取り扱い中止までの 1 年間のおよその年間分娩件数と正常分娩の件数を教えてください。

年間分娩件数	_____ 件
正常分娩件数	_____ 件



4. 助産師免許保持者の所属と実人員数について教えてください。分娩に携わるかどうかや所属の詳細はわかる範囲で構いませんが、合計欄は記入してください。

<分娩取り扱い中止前>

	分娩に携わる助産師数	分娩に携わらない助産師数
産科(産婦人科)	名 (うち常勤者数 名)	名 (うち常勤者数 名)
院内助産所	名 (うち常勤者数 名)	名 (うち常勤者数 名)
それ以外の部署		名 (うち常勤者数 名)
産前産後休業 育児休業		名 (うち常勤者数 名)
合 計	① 名 (うち常勤者数 名)	② 名 (うち常勤者数 名)

実人員合計

①+②=③ 名(うち常勤者数 名)

<分娩取り扱い中止後>

	分娩に携わる助産師数	分娩に携わらない助産師数
産科(産婦人科)		名 (うち常勤者数 名)
院内助産所	名 (うち常勤者数 名)	名 (うち常勤者数 名)
それ以外の部署		名 (うち常勤者数 名)
産前産後休業 育児休業		名 (うち常勤者数 名)
合 計	④ 名 (うち常勤者数 名)	⑤ 名 (うち常勤者数 名)

実人員合計

④+⑤=⑥ 名(うち常勤者数 名)

5. 分娩取り扱い中止前後に採用した助産師免許保持者数を教えてください。

分娩取り扱い中止決定後に採用	名(うち常勤者数 名)
分娩取り扱い中止月以降に採用	名(うち常勤者数 名)

6. 分娩取り扱い中止をきっかけに退職された助産師免許保持者数を教えてください。

分娩取り扱い中止決定後に退職	名(うち常勤者数 名)
分娩取り扱い中止月以降に退職	名(うち常勤者数 名)

7. 分娩取り扱い中止をきっかけに退職された助産師の進路についてお答えください。詳細は分かる範囲で構いませんが、合計は記入してください。

		助産師として就職	助産師以外の看護職として就職	看護職以外で就職	無職	合計	
二次医療圏内	病院	名	名	名	/	名	名
	診療所	名	名	名	/	名	
	助産所	名	名	名	/	名	
二次医療圏外	病院	名	名	名	/	名	名
	診療所	名	名	名	/	名	
	助産所	名	名	名	/	名	
その他 ( )		名	名	名	名	名	
合計		名	名	名	名	退職者計 名	

8. 分娩取り扱い中止をきっかけに、施設として助産師の資格を活かした取り組みを実施しましたか。あるいは現在考えていますか。当てはまるものを選んでください。また、時期と具体的な内容を教えてください。(複数回答可)
- a. 院内助産所 ( 年 月から )
- b. 助産師外来 ( 年 月から )  
 (業務内容: 妊婦健診 ・ 相談業務 ・ 乳房マッサージ ・ その他 )
- c. その他 ( 年 月から )  
 (内容: )

9. 分娩取り扱い中止にあたり、看護管理者として助産師へどのような支援をしましたか。当てはまるものを選んでください。(複数回答可)
- a. 助産師との個別面接
- b. 複数助産師との話し合い
- c. 他病院への推薦
- d. 就職先紹介
- e. 病院内で助産師として活躍できる場を開設
- f. 病院内他部署への紹介
- g. 特に支援なし
- h. その他 ( )

10. 分娩取り扱いを中止する病院が増加している現在の産科医療に関して、お考えになっていることがありましたらお答えください。

今後この調査票に関して、詳細の問い合わせに応じてくださる場合、および研究結果の送付を希望される場合は□にチェックを記入してください。その際のご担当者のご連絡先を教えてください。問い合わせについてはご希望の方法を一つ以上お選びください。尚、個人情報は本調査のみに使用させていただきます。

- 問い合わせ可  
（問い合わせ方法： 電話 FAX E-mail 面接 ）
- 研究結果送付希望あり

<ご連絡先> 氏名：  
所属：  
TEL：  
FAX：  
E-Mail：

ご協力誠にありがとうございました。

## 資料 5

〇〇〇〇看護部長様

2008年\*\*月\*\*日  
長野県看護大学大学院  
博士前期課程 増田 綾

### 研究協力をお願い

拝啓

貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

早速ではありますが、先般\*\*月\*\*日付書信にてご協力をお願い致しました調査票に関しまして、ご回答を頂戴したくご連絡申し上げました。

本研究は平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「助産師の需給実態の把握と適正な養成数および配置基準の探索」(主任研究者:前田樹海)の一環として「分娩取り扱いを中止した病院における助産師の動向」について調査研究を進めており、対象病院看護部長様のできる限りのご協力をお願い申し上げている次第です。

大変お忙しいところ重ね重ね恐縮ですが、研究趣旨をご理解いただき、\*\*月\*\*日\*曜日までに郵送もしくは FAX にてご返信いただけると幸甚です。

なお、ご回答が本状と行き違いになりましたら失礼をお許しください。

敬具

ご不明な点は以下へお問い合わせください。

TEL : \*\*\*-\*\*\*\*-\*\*\*\*(増田) \*\*\*\*-\*\*\*\*-\*\*\*\*(前田)

FAX : \*\*\*\*-\*\*-\*\*\*\*

E-Mail : ns0770\*\*@nagano-nurs.com(増田)